

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成17年3月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油出荷量は、前年同月比でかなりの減少となり、依然として低迷が続いている。
	パン・菓子製造業	菓子業界における四季の生活習慣行事が年々薄れてきている。気候も良くなり、観光客数も増えているようだが、客単価の減少等で売上高増にはならない。
繊維・同製品	その他の織物業	引続き多品種・少ロット・短納期が多く、生産効率が低下している。厳しい状況が続く中、弱点の克服と向上に向けて前向きに行動している組合員も多い。一方で廃業・休業等もあり、産地として深刻な事態となっている。
	織物業	絹分野では相次ぐ国内外の災害による消費控えや信用不安による売行き悪い状況が続く中ではあるが、絹和装業界が取り組んでいる日本文化の見直し活動により、きものへの感心が高まりを見せ、需要拡大が期待されるが、現段階では多品種・極少ロットの発注に終始し、また平成17年1月1日より絹織物の輸入が自由化され、これまで撤退気味であった中国での和装生産が、再活発化の動きが見られるなど不安材料が多く、厳しい採算性で推移している。合繊分野では、デザイン性のあるインテリア、極細繊維織物など差別化衣料で好調なものも点在し、特にインテリアカーテン分野で検査基準が厳しく、品質面で海外製品と競合しない提案企画品の注文があり、生産量増回復傾向はかなり見られるようになってきている。しかし、強い低コスト要請や開発費の増大などにより、採算性を改善するまでには至っていない。高度成長を続ける中国への高付加価値差別化織物の輸出が期待される。しかし国内衣料需要は益々海外激安製品の圧迫により低迷してきており、当産地の業況は厳しさが続く見通し。新商品開発に伴う設備の改良は見られるが、新設備投資計画は極僅かなものになっている。
	その他の織物業	春の受注展が3月末から4月中旬まで開催されるが、期待薄。
	ニット生地製造業	3月は取引先も決算期のところが多く、極力在庫を持ち越したくないため、プレーキがかかり気味。そのため生産の動きは鈍い。ただこれからが需要期のため、ムードとしては暗くない。
	その他の織物業	3月度は、昨年3月に比べ、売上はほぼ横這いとなった。しかしながら、収益の悪化が収まらず、この3月期決算では大幅な収益の悪化となって、この期を終了した。今後も、機屋さんのみならず、組合経営にとっても、依然として厳しい状況が続くものと考えられる。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	3月に入り档材の単価下落。製材所の仕事量も減少。
	製材業、木製品製造業	3月度は予想通り低調であった。ただ、4月の予約状況は非常に良い。しかし他県の攻勢が思いのほか厳しく、価格の下落が危惧されている。この要因に関しては、設備増大による供給過剰体制が一つの要素となり、今後の価格動向が気になる。
窯業・土石製品	砕石製造業	3月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比生コンクリート向け▲2.1%、アスファルト合材向け▲26.75%、全体量で▲8.4%と減少した。12ヶ月トータルの対前年比では、設備操業度で17.3%減少となり、全体量でも16.5%の大幅減少となった。このような厳しい市況に対応すべく、協業化や集約化を推進している中、4月より新たに1組の生産協業化が成立。
	陶磁器・同関連製品製造業	5月の九谷茶碗まつりへ向けての準備を進めている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、3月末現在、前年同月比98.4%とまたもマイナスとなった。16年度合計では90.2%と前年度に比べ約10%減と低調な状況となった。3月の地区状況は、金沢地区、鶴来・白峰地区及び能登地区でプラスとなったが、4ヶ月連続プラスであった南加賀地区は、約14%と大きなマイナスとなった。又、1年間合計で前年度よりプラスとなったのは、能登地区のみであった。今年度の低調な原因は、公共事業の減が大きく影響しているものと考えている。
	粘土かわら製造業	新入社員(高卒者)3名雇用。冬期間の契約が3月末で終わるので、駆け込み需要が多くあった。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	好況であるが、益々材料等の値上げが多い。特に鋼材、ステンレス等が高い。豊作貧乏にならない方策が必要である。
	鉄素形材製造業	景況はやや頭打ちの様相が見受けられている。しかし、受注引き合いは比較的活発だが、ただ、特殊鉄鋼の製造や、品質、価格において厳しい要求があり、受注に繋がるのは少ない状況である。鑄造業界は、鑄造用原材料の高騰から、採算割れが生じ経営を圧迫している。そのため鉄鋼製品の値上げをせざるを得ない状況にあり、ユーザーに理解を求めてきた結果、値上げに成功した企業も多い。今後はこれらを踏まえ、より一層の技術力の向上に努め、ユーザーニーズに応えた製品作りに努力し、もの作りの時代において、いまこそ鑄造の位置付けを確立して行かねばならない。
	機械器具の生産	設備投資の企業が増えている。

情報連絡一覧票

(石川県中央会・平成17年3月分)

一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	4月以降の材料費の再値上りが色濃く影響して、収益状況・取引条件、来期採算・来期資金繰りで悪化傾向が見られる。手取川以南、以北で景気の好不況の差が目立っている気配が見える状況下にある。設備投資意欲についても、傘下企業の設備動向傾向を見ても同様の気配が感じられる。
	繊維機械製造業	当組合の主要得意先である繊維機械メーカーの生産は、4月以降徐々に上昇する見通しになってきた。しかし、組合員は原材料価格の高騰に苦慮している。鋼材は4月から更に値上げされる。組合員は、得意先に対して材料値上り分の値上げ交渉を行っているが、各社とも厳しい価格競争の中で、製品価格の引き上げは難しいとして、100%認めてもらうことはできないでいる。
	プレス、工作機械	3月も鍛圧機械の受注は、自動車関連設備を中心に堅調に推移している。又、事業年度最後の月の生産も一段落したところであるが、4月から始まる新年度分は既に生産能力を超え、商談は'06年度分になっている。このような環境の中で、下請部品メーカーも高負荷になっている上、更なる鋼材価格の値上りと入手困難により、納期確保が難しくなっている。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	K社関連の企業を中心に受注状況は順調に推移しており、自動車関連部品製造業も好調である。ただ、原油高、鋼材等の原料高等で収益は圧迫され、企業間格差が見られるのは避けられない状況である。
	機械金属、機械器具の製造	操業度は、高い水準で推移しており、安定した状態となっている。しかし、鋳物業材の調達には苦慮しており、日程管理の足を引っ張っている。高水準の操業を維持するため、新たな追加雇用も発生している。そのため、それら増えた社員の通勤用マイカーの駐車場確保が難しく、公共交通機関の充実など、抜本的な対策が望まれている。
その他の製造業	漆器製造業	近代漆器は、春の新商品が展示会の反応が悪く引き合いが少なかった。特にギフト物が悪い。その上、原材料の石油製品の値上げによる影響が出始めてきている。伝統漆器も需要が少なく、特に2月の売行きが悪かったが、3月は少し持ち直した感がする。外国の廉価な木製品の輸入が依然として続いているが、これも量販店での販売が減少している。その他大量販売店(100円均一店)向けの格安の商品を製造している一部の業者が、大量に出荷して多忙を極めているが、産地全体に対する影響はまだ少ない。

集計上の分類業種	具体的な業種(産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	得意先において、3月が決算であるところが多く、余分の在庫(普段から持っていないはずであるが)を持つなど指令され、産地に対して圧力をかけていると聞く。苦戦が続く。反動で、新年度から盛り返すことが出来れば良いと思う。
	農畜産物・水産物卸売業	売上減少が続いている。
	一般機械器具卸売業	街中を見ると結構箱物の建築現場が見られますが、2月3月と続いて良くありません。3月決算のところが多く、赤字決算になるところが多いようです。3月末に電気工事業者が1社不渡りを出し、富山、福井、石川と悪い揃い踏みです。最近では、手形のジャンプ、不渡り等が発生すると、即倒産につながります。1,2,3と苦しい状況が続きます。
小売業	燃料小売業	例年寒気が緩み灯油価格は軟化するのだが、寒気が続いたことから出荷制限となるほど需要環境が引き締まり価格は上昇。灯油販売は好調が続いた。原油価格は2月に引続き、更に上昇を続け、史上最高値を更新する状態の高水準である。原油コストが上昇し、仕切価格がアップするので、3ヶ月連続の値上げとなるが、4月は今までに無い大幅な店頭価格の値上げが予想される。
	機械器具小売業	家電流通協議会加入メーカー7社の17年2月総ルート出荷額伸びは100%であったが、地域店の伸びは95%と前年ダウンの状況だった(量販店伸びも94%)。年明け後大型カラーテレビの価格下落が続いており、1インチ1万円を下回る機種も出てきた。量販店の安値チラシ合戦は益々激化しており、消費者の価格不振・買い控えが地域店を直撃、大変厳しい状況になってきている。この傾向は3月になっても改善の兆しは見られず、地域店前年伸び95%と見られる。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	春物のセールに期待したが、気温が上がり苦戦した。前年は中高年齢用、冬物(特に肌着、アウター物)処分が順調に売上推移した。それでも前年比96%止まりであった。
	鮮魚小売業	天候不順。県内漁協でも輪島港より船が出られない(小型船が主力の為、強風等に影響を受け易い)と、底曳き物、特に一般向けのカレイ類等の入荷が少ないと商売に差障る。
	他に分類されない その他の小売業	3月は、兼六園入園者数が前年比81.7%。(有料入場者数)16年度1年間では前年比89.3%であった。
	百貨店・総合スーパー	3月の売上は予算比86.1%、前年比91.7%と前月に引続き良くなかった。当組合は、専門店の集合体なので、前年大きな売上を作った店舗が今年落ち込むと全体に大きく響く傾向があり、今月がその典型的な月だったように思われる。又、3/25からの当専門店街の周年祭の売上が悪かったのも大きな原因の1つであります。3月で平成16年度が終了につき、年間の部門別前年比(既存店ベース)として、ファッション95.9%、服飾・宝飾93.3%、生活雑貨96.1%、食品100.6%、飲食97.9%、サービス87.4%、トータルとして95.3%という結果に終わった。個店別にみても前年比達成店舗は全体の1/3であって、16年度はどの部門も良くなかった。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成17年3月分)

非 製 造 業	米穀類小売業	小売店の販売量並びに販売価格は、前月に引続き低迷している。価格見直しについては、ほぼ下げ止まったとの見方で一致しているようである(横這いで推移)。消費量の減少の要因は、高齢化世代交代の進展、核家族化、共稼ぎ世帯の増加、食の嗜好の多様化などがある。消費者の米購入先のアンケートによると、1位はスーパーマーケットで70.6%、米穀店は4位で13.9%であった。	
	近江町市場	悪天候に伴う人の出が悪く、売上も減少気味である。	
	商店街	尾張町	かつては年度末の駆け込み需要というものがあったのは確かだが、ここ近年はそうした傾向が減りつつあった。それが、特に今年は顕著に現れ、逆に3月年度末だというのに、それまでに計画的に予算をこなし過ぎて、年度末には全く予算が無くなり、注文が途絶えるという事態にまでなっているようだ。売り上げの波をグラフ化すると、3月に一つのピークがあったものが、今年は逆ピークにでもなってしまうそう。特別なボーナス売り上げというものも全く姿を消し、一年をおしなべてなだらかな波になってきている。
	サービス業	旅館、ホテル	大学受験や卒業シーズンに入り、昨年同期より各施設においては弱冠宿泊客は好転している。
		旅館、ホテル	3/25より愛知万博がオープン。団体客の影響が出だしている。一方、万博会場周辺で1泊、加賀温泉郷で1泊という遠方からのバスツアーもある。個人消費の伸び悩みの影響が続く。第三次産業にも人材派遣等契約社員が増えつつある。
		自動車整備業	継続検査対象車両数は、前年同月比2.0%減、前月比では79.1%増。新規登録車両は、前年同月比2.2%減、前月比では95.3%増で推移している。
		洗濯業	昨年比6%増加でした。組合員の話では若干上回るとほぼ同じが半々の意見です。昨年のように大幅に落ち込むことはなし。極端に良くも悪くも無いというところ です。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比22.6%増となった。内訳としては、民間土木は32.7%増、民間建築は157.4%の増となり、民間としては87.6%の増となった。公共土木は17%の減、公共建築は3.1%の増となり、公共としては15%の減となった。民間の建築は少し上向きになったが、公共の土木は公共投資の減少で、少しずつ低下しているように思われる。
		鉄骨・鉄筋工事業	稼働率90%。良好ではあるが、地域間で格差あり。又、毎日により差があり、応援にて対応している。受注単価も指値ではあるが改善されている。
		板金・金物工事業	仕事量は、多少前月に比べて増加。材料の値が高くなっている。仕事単価が安い。町の大工さんからの仕事が減っている。等前月と余り変わらない。景気は余り良くなっていないようである。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	全体的に、決算期の3月とは思えない程の物流量であった様であるが、地元建機メーカーは順調に出荷していた様である。しかし、月後半の全体的な物流出荷量は、期待していた程ではなく、軽油価格の高騰等の問題も踏まえ、業界は今、何らかの対応を打って出ないと生き残りは非常に厳しい状態が、益々酷くなっていく様である。
		一般乗用旅客自動車運送業	タクシー会社の構図は、人件費がやく割で、設備費は燃料、修理代を含めても1割程度で、総経費(支出)を変えない給与体系(歩合制)の中で、総売上を確保する(増車)方法が進行しています。しかし労働環境の悪化から、乗務員の確保のできない会社は倒産に追いやられ、現状は、良質な若手労働力が確保されていないのが現状です。以上の弊害として、①運転手の時間給は最低賃金にも抵触する状況。②安全運転、サービス上にも影響を及ぼしている。③良質な若手の(市場)確保が困難である。結果として、利用者の信用も失い、又、社会から見放される恐れがあり、重大な状況にあると思います。
		一般貨物自動車運送業	年度末という特殊事情もあり、車両の稼働率が上がり、売上高は増加した。特に低調であった建設運輸業(ダンプカー)も多忙であった。通常売上が伸びれば、利益がついてくるはずである燃料費などのコストが増加しているため、利益は横這いである。4月は更に燃料価格の大幅(リッター6円程度)値上げがなされる様相、現状の運賃では吸収できなくなる。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等